

踏み跡 <My Mountains>

九州(大分の山)	別府から由布岳と鶴見岳	No.192
----------	-------------	--------

昭和57年1月1日

今年もかみさんと子どもたちは千葉でお正月を過ごすため帰省し、一人暮らしの冬休み。

例によって元日のお昼までは緊急時連絡体制に基づき自宅待機。

今年是由布岳に登って別府へでも・・・と思いついた。細かいことは特には決めず、別府駅前のビジネスホテルの予約だけして13時40分に車で出発。

今日は特に山に入るわけでもないのに、行ってみたいと思っていた所を気ままにドライブして別府まで行くことにした。



冷水峠を越えて筑豊へ入り、桂川・秋月・小石原を通り抜けて日田へ、210号線経由で湯布院を通過して別府へ。途中、水分峠付近で小雪の洗礼を受けてひやりとしたが、さほどのことはなく通過。

別府駅前に18時30分に到着。ビジネスホテルより温泉旅館の方が落ち着けるので、観光案内所に入って空いている旅館を探してもらったら、奥別府の堀田(ほりた)温泉の扇山観光ホテルを紹介してくれた。正月のしかも飛び込みなので、一泊二食付き15,000円だと言う。「千葉へ帰る飛行機代を考えたら安いもんだぜ」と妙に手際よく納得して即座に意思決定。腹も減ったし寒いし、ビジネスホテルをキャンセルして宿へ。



宿には19時に到着。元日の夜は少々泥っぽい温泉と美味しい料理(海老フライと鯛の塩焼きが付いていた)とでゆったりと。(左写真)

昭和57年1月2日

朝起きると快晴の日差し、元気百倍。朝食をとって宿を8時半に出発。

由布岳登山口まではわずかな距離。身支度を整えている最中

踏み跡 <My Mountains>

に「宿で水を汲んでこなかったこと」に気がついた。まあ、冬だから喉の渇きに耐えられないことはないだろう、トマトジュースもあることだし……。



見上げると由布岳は霧氷で真っ白に化粧し、頂上付近はガスの中に首を突っ込んでいる。9時に出発。

合野越（ごうやごえ）9時45分、海拔1000m。これから標高差583mのジグザグの登りが始まる。

コル10時45分、歩きながら木の枝に体が触れるとバラバラと音を立てて霧氷が崩れ落ちる。霧氷の中で冷たそうな景色ではあるが、風を避けると意外に暖かい。

コルから三角点がある西峰（これが頂上：1583.5m）を往復。由布岳は豊後富士とも言うだけに見晴らしが良い。湯布院の町はまるで箱に歯を見下ろすような景色だ。

東峰に移動し、11時30分と少々早目ではあるが昼食。

メニューはパン・バター・ハム・トマトジュース。

昼食を食べている内に久住連峰が徐々に雲の中から姿を現し始めてきた。（右写真）展望は文句の言いようがない素晴らしさ。目の前の鶴見岳・高崎山はもちろんのこと、国東半島や佐賀関方面までが鮮やかに目に入ってくる。

12時30分出発。下山は東登山ルート。下って行くにつれて目の前の鶴見岳が見上げる高さになって行く。

東登山口（猪瀬戸）13時30分。鶴見岳へ2時間と書いてある。

長崎から来たと言う人が、「昨日は久住で今日は由布岳、ダブル登山だ」と言っていたのを聞いて火が着いた。再び機会があるかどうかわからないので思い切って挑戦してみることにした。

さっき下ってきた由布岳を背にして、時折振り返っては高さを確かめながら登るのは楽しい。

1150m地点14時15分。馬の背越（1260m）。

鶴見岳山頂（1374.5m）14時30分。正月のせいもあるだろうかロープウェイから来る一般客が多く、由布岳とは全く異なる雰囲気。ミカン三個を食べて一息ついただけですぐに下山開始。（右写真：鶴見岳から由布岳を望む）

猪瀬戸16時30分。登山口に17時帰着。登山口では夕日を浴びて輝くような由布岳が出迎えてくれた。（右下写真）

帰りは210号線で久留米へ出て夕食を食べて、久留米インターから九州自動車道に入り福岡の自宅に22時に帰着。

今回の旅の走行距離は合計387.7Km。



以上

